

【レポート】

自転車での走行ルート「しまなみ海道サイクリングロード」を活用し、広島・愛媛両県や今治市とともにサイクルツーリズムに取り組んできた尾道市において、特にインバウンド誘客にかんするこれまでの動向と、今後に向けた課題について、まとめました。

サイクルツーリズムとインバウンド誘客について

— 尾道市・瀬戸内しまなみ海道の事例 —

広島県本部／尾道市職員労働組合 川本 惇央

1. 尾道市の概要

瀬戸内のほぼ中央に位置する尾道市は、平安時代、備後大田荘公認の船津倉敷地、荘園米の積み出し港となって以来、北前船等の寄港地として商業貿易が盛んになり、中世・近世を通じて繁栄をとげました。港町・商都としての発展は各時代に豪商を生み、多くの神社仏閣の寄進造営が行われました。

市街地では、階段や坂道や路地が迷路のように入り組んでおり、路地越しに見える尾道水道や、点在する寺院など、昔ながらの風景が今に残っています。

また北部には、緑豊かな丘陵地域、南部には瀬戸内の島々が橋でつながり、地域によって異なるロケーションを生み出しています。

このように、多彩な資源を有する尾道市では、志賀直哉や林芙美子をはじめ、多くの作家らが尾道で足跡を刻み、近年では、映画やドラマ、CMなど、数々の映像作品の舞台となっています。

現在は、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道、中国やまなみ街道の開通により東西南北へのアクセス性が高まり「瀬戸内の十字路」として今後の発展が大いに期待されています。



「天寧寺三重塔越しに見る尾道の夏風景」



「しまなみ海道（多々羅大橋）」

2. サイクルツーリズムの推進

尾道市には、愛媛県今治市との間を島と橋で結ぶ西瀬戸自動車道、通称「瀬戸内しまなみ海道」があります。瀬戸内しまなみ海道は、自動車道と名の付くとおり全長約60kmの自動車道ですが、各橋に自転車歩行者専用道路が併設されており、自転車で島と橋を交互に走行することができます。

尾道市では、自転車での走行ルート「しまなみ海道サイクリングロード」を活用し、広島・愛媛両県や今治市とともに、サイクルツーリズムに取り組んできました。代表的な例としては、路面へのブルー

ラインやサイクリングルートの方角・残距離標示。また、サイクリングルート沿線の飲食店等に協力いただき、サイクリストが休憩することができる施設「しまなみサイクルオアシス」の整備などです。これらは現在、全国各地で同様の事例がありますが、取り組みの先駆けはしまなみ海道でした。

また、しまなみ海道沿線では、1999年のしまなみ海道開通当初から尾道市と今治市によるレンタサイクル事業を運営しており、子ども用自転車からスポーツタイプ、電動アシスト付など多彩な車種を展開し、初心者でもサイクリングを楽しむことができる環境を整えています。



「しまなみ海道サイクリングロード 写真左右：路面に引かれたブルーラインと残距離標示」

また、自動車専用道路を通行止めにし、自転車で走行することの出来る国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」を隔年で開催しています。供用中の自動車専用道を走行するサイクリングイベントもまた、しまなみ海道が全国初となる取り組みでした。



「サイクリングしまなみ2018 写真左：高速本線を走行 写真右：会場でのおもてなしの様子」



「複合施設『ONOMI CHI U2』外観」

民間投資も積極的に行われています。2014年には自転車を客室に持ち込める宿泊施設やレストラン、バー、ショップなどを併設した全国初のサイクリスト向け複合施設「ONOMI CHI U2」がオープン。施設前のスペースはサイクリングイベント等でも活用されています。近年では、レンタサイクル店やサイクリストを意識した飲食店や宿泊施設も相次いでオープンしています。

3. インバウンド誘客の動向

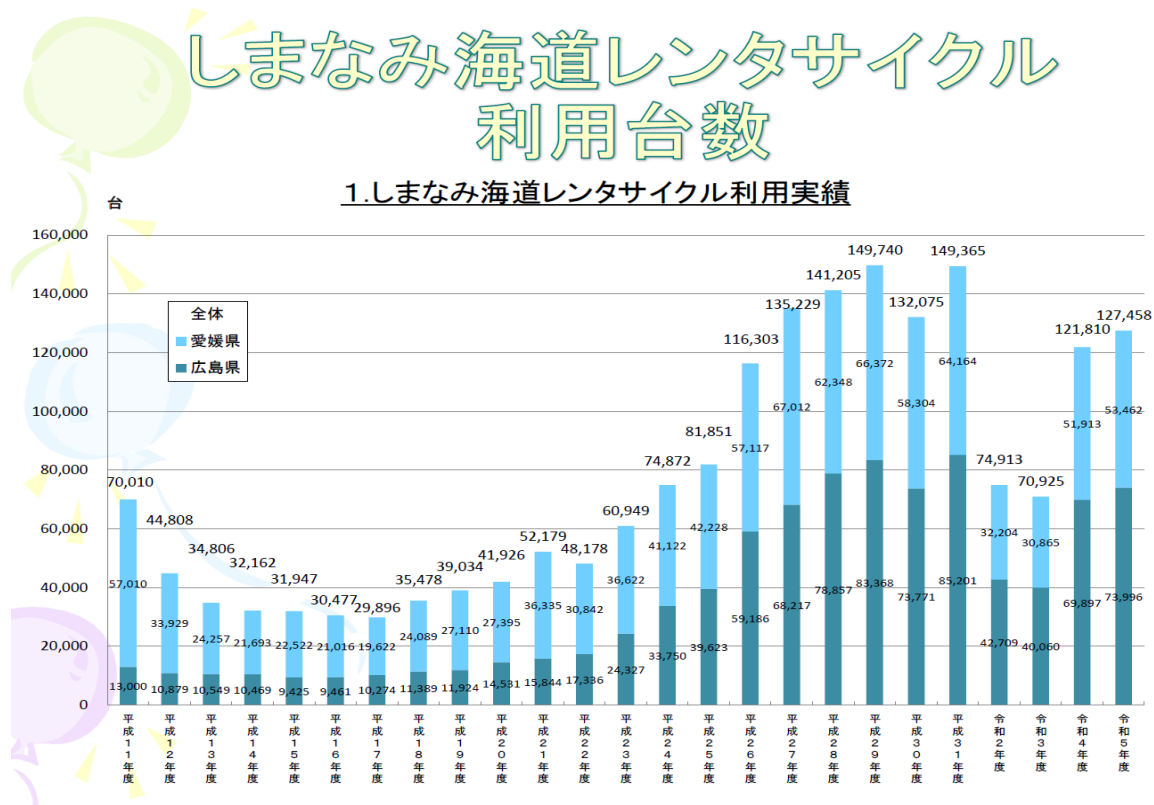
多島美と橋の造形美によって生み出されるしまなみ海道のロケーションは、世界的に見ても珍しく、この観光資源を活かすべく、広島・愛媛両県と尾道・今治両市が一体となって、国内外からの誘客に取り組みました。

2012年には愛媛県の主導で台湾にある世界最大の自転車メーカー「ジャイアント社」よりCEOを招き、しまなみ海道を走行する台日交流イベントを開催。CEOは、しまなみ海道サイクリングロードについて、「世界で最高のサイクリングパラダイス」と発言。このイベントを、国内外の多数のメディアが取り上げたことで、広く発信されました。

その後、2014年に米CNNが世界7大サイクリングロードとして紹介。2019年には米The New York Timesの世界で行くべき52か所で「瀬戸内」が選出（第7位、日本唯一）されました。

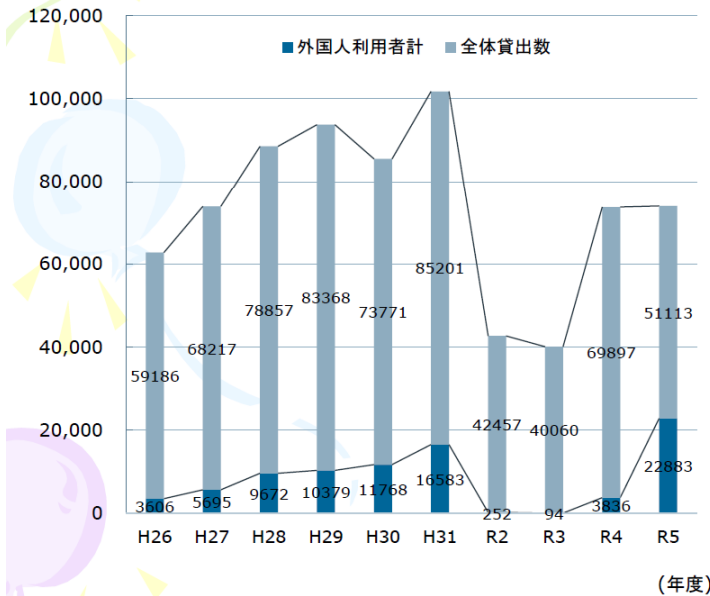
このように、メディア露出や尾道を訪れたインバウンド客のSNS等での口コミにより、海外での認知度が徐々に高まってきました。

インバウンド客の動向を把握する手段のひとつとして、レンタサイクルの利用者数データがありますが、利用者は年々増加していることが分かります。国別では、2019年までは台湾の利用者が最も多く、次いで欧米豪といった傾向でしたが、新型コロナウイルスの世界的な流行を経て、現在は欧米豪の利用が最も多くなっています。これは、渡航制限の解除のタイミングや、2023年に広島県で実施したG7サミットなどの影響が大きいのではないかと推測されます。

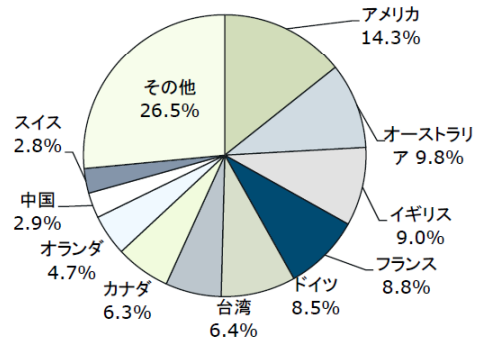


尾道市ターミナルにおける 外国人利用台数(1)

1. 外国人利用台数



2. 国別利用状況(※令和5年度)



※ 上記グラフの数値は尾道・今治両市のレンタサイクル事業で貸し出した自転車の台数であり民間事業者が運営するレンタサイクルの利用台数は含まれていない。

4. インバウンド誘客の課題

サイクリストの増加に伴う課題のひとつとして、走行マナーやルールの問題があります。自転車の文化や通行ルールは国ごとに異なります。道路の反対車線を走行したり、後方確認せず、急に道路の横断を開始したり、並列走行したりすれば、事故につながるほか、地域の方の生活にも支障をきたします。この問題はインバウンド客に限ったものではなく、国内客に対しても走行マナーやルールの周知が求められています。

しまなみ海道では、レンタサイクルの貸出しの際にスタッフが説明したり、サイクリングマップに掲載したりすることで、走行マナーやルールの周知を図っているほか、YouTubeでオリジナルの動画を公開することで、わかりやすく伝える取り組みを行っており、こうした取り組みを継続して行う必要があります。



マンガでわかる「はじめてのしまなみサイクリング」 | しまなみ海道 | しまなみジャパン

しまなみジャパン公式動画チャンネル
チャンネル登録者数 181人

チャンネル登録

👍 27 🗨️ 🔖 🔍 📌 ⋮

1万 5千 視聴 1年前

瀬戸内を旅する途中でしまなみ海道をサイクリングすることになったコウキとカナ。

※著作権は「しまなみ」の登録商標です。無断転載は禁じます。

「動画によりサイクリングの楽しみ方やルール、マナーを周知
((一社) しまなみジャパンYouTube公式チャンネル) 」

また、もう一つの課題として、観光消費額の伸び悩みがあります。インバウンド客は徐々に増加傾向にあるなか、2022年に尾道市へ来訪した観光客の一人あたり観光消費額は4,514円であり、県内市町の広島市(23,793円)と比較し金額に大きな差があるのが現状です。市内に宿泊をしてもらうことで、観光消費額は大きくのびますが、広島県内に来訪するインバウンド客の多くは、他府県へのアクセス性が良く、日帰り圏内である大阪を拠点に行動しており、拠点を尾道に行動してもらうための施策が求められます。また、国内において、飲食や各種サービスの価格は他国に比べて低く、価値に見合った価格でインバウンド客に提供できるかがポイントになります。

5. 今後に向けて

観光庁が策定した「観光立国推進基本計画」において、観光が国の成長戦略・地域活性化の切り札であるとし、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大に取り組むこととしており、具体的な数値目標も掲げています。

2025年には大阪・関西万博の開催も予定されているなか、消費額単価を上げるため、いかにインバウンド客を尾道に呼び込み、いかに拠点を尾道にしてもらえるか、万博に向けた短期での施策や5年10年先を見据えた長期的な施策の両面を検討していく必要があります。

拠点施設・交通網の整備や、多彩なニーズに対応したサービスの造成、コンシェルジュの育成など、考えられることは多数ありますが、まずは、施設の開発事業者やインバウンド客へのサービスを提供する事業者等を通じてインバウンド客の動きやニーズを把握すること、そしてなにより、地域や地元の事業者等の意見を吸い上げ、一緒に取り組んでいくことで、インバウンド客の来訪を通じて、尾道の更なる活性化につながるのだと思っています。